

田中家通信



株式会社田中家石材

VOL. 28

発行 株式会社 田中家石材
住所 彦根市高宮町1-0-8-1
電話 0749(22)50000
HP: <http://www.tanakaya-sekizai.com/>
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

日本のお正月

日本人にとって「お正月」は特別な意味を持っています。

農耕民族である日本人は、新年を迎えると、その年の豊作を願って神様にお祈りを捧げていました。「皇室」では、川に入って身を清め、天と地、東西南北を拜む習慣があり、この「身を清めて神様を迎える」神事が、お正月の行事につながったのだそうです。

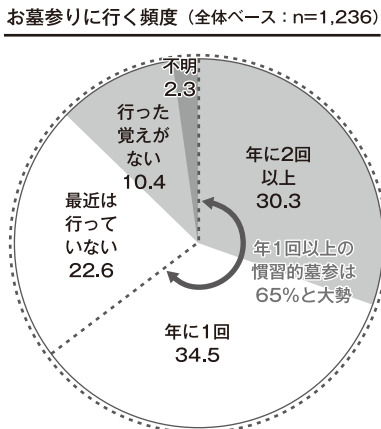
自然の恵みに感謝し、すべてのものに神様が宿ると信じている日本人は、亡くなった先祖の魂が田畑や山の神様になり、子孫を見守ってくれているのだと考え、お正月にやって来る神様を「年神様」と呼んでお迎えしました。



「供養。習慣がやさしさを育てる」

「お墓参りなどの先祖供養の経験は、他人への思いやりを高めることに役立つのではないか」ということは、以前から言われてきたことですが、それを裏付ける調査結果が発表されました。

尾木ママこと、教育評論家の尾木直樹氏が「母を語る集い」で記者から「ご専門の教育という観点から、お墓参りの意義や役割をどうお考えでしょうか」と質問を受け、「お墓参りの回数と子供のやさしさ度合などの関連について統計をとって調べてみれば、おそらく強い相関性が表れるのではないかと思います。お墓参りというのは日本の伝統文化ですし、宗教を問わず広く大きな教育的意味を持つと思います。」との返答がありました。



お正月のお墓参り

お墓参りの節目の時期には命日を始め、お正月・春彼岸・お盆・秋彼岸があります。墓石の建立時期も年回忌以外に、この時期までに「お墓を建立」される方もおられます。基本的には、「お墓の建立」は祝い事の一つで、思い立った時が佳いと云われています。「お正月のお墓参り」は佛花でも構いませんが、できれば「松竹梅」で、「氏神さん」参拝の後、お参りされることをお勧めします。

門松

門松は神様が家を見つけてくださる目印であり、お迎えの準備ができていることを知らせる為でもあります。

バタバタと大晦日に一夜飾りは失礼にあたり、二十九日は「九」が苦しみに通じる「苦立て」という理由で嫌われ、末広がりの「八」につながる二十八日に立てるのが佳いとされました。

尾木氏の見解をもとに（株）日本香堂では、全国の中学・高校生1236名を対象として、子ども達の「供養経験」と「やさしさ」の関係性調査を実施し、その結果を発表しました。

尾木氏の指導・監修のもとに設計・実施が進められた調査で、習慣的な墓参りや仏壇礼拝の経験値が他者への「やさしさ・思いやり」における統計的有意差に影響していることが認められるかたちになりました。

尾木氏は、「教科書や口頭だけの『徳目』的な道徳教育の強調よりも、具体的に祈る『行為』の力の方が、確実にこども達のなかに、やさしさ・思いやりを醸成し、高めることを暗示している」とコメントをよせています。

この調査結果から、第一に、「お墓参りや仏壇に手を合わせる頻度によって、他者へのやさしさ・理解・共感が内面化されている可能性が高い」第二に、「先祖といった目に見えないスピリチュアルなものに対する畏敬の念が、家庭の中に文化として息づいていることが推察される」第三に、「お墓参りに行き、

おみくじ

おみくじの順位は、地域によって違いはあるものの、一般的に大吉・中吉・小吉・吉・末吉・凶・大凶となります。

マナーとしては、まず神様やご本尊さんにお参りをして、あいさつを行い、漠然と自分の運勢を占うのではなく、特に気になることを具体的に思い浮かべながら「おみくじ」を引きます。吉凶にかかわらず記されている教訓を戒めるつもりで持ち歩くものとするところ、佳いおみくじは持ち帰り佳くない場合は境内に結び付け、凶をとどめるものとするところがあります。

申年の猿

鬼門の位置に守護として、神社やお寺を建てることは、昔からあることです。

平安京では、比叡山延暦寺と日吉大社です。この神様のお使いは「猿」で「神猿」と書き、「まさる」と言います。申の方角が西南で「裏鬼門」にあたります。江戸の守護である日枝神社は、絵馬やお守りに猿が描かれています。天孫降臨の際に高千穂に瓊瓊杵尊（にぎのみこと）を先導した猿田彦の神をお祀りする神社には、伊勢を始め全国にあり、福岡県の猿田彦神社では、猿は「災難が去る」として、猿の面を玄関に掲げる風習があります。



帰ってきた狒犬

先日、テレビで二十年前に盗難に遭った神社の狒犬のニュースがありました。

十年ほど経った頃、知人からある骨董品店に狒犬が置いてあると連絡があり、神主さんが交渉にいかれましたが、「八十五万円以下では譲れない。」といわれ諦めたそうです。それから五年が経ち、別の知人から、今度は別のお店に置いてあると連絡があり、神主さんは何とか取り戻そうと、粘りに粘り四十万円で話を付けられたそうです。

しかし、よくよく考えると神主さん自身が購入すると私物になるので良くないと考え、氏子さんに相談されてる矢先に、その骨董品店の店主から、「狒犬」を寄進させて頂きたいと電話があり、皆さん『びっくりぽん』で、早々に詳しいお話を伺うと店主が、「何故か、お金をもらったらいけないような気持ちだが、日々大きくなって来てお電話しました。」とおっしゃったそうです。

不思議な事ですが、その店主さんは、「狒犬」を寄進された代わりに、「徳」をもらわれたと思います。

「初夢」

初夢は、一般的に二日の夜にみる夢だといわれています。

ちなみに初夢にみるとめでたい夢は、一に富士、二に鷹、三に茄子です。理由を調べてみると諸説ありますが、富士講の一つがある駒込富士神社の周辺に鷹匠の屋敷があり、駒込茄子が名産物だったことにちなんだという説や徳川家康が好んだ富士山、鷹狩り、初物のナスビに由来するという説もあります。

ごろ合わせとしては、富士は日本一の山、鷹は賢くて強い鳥、茄子は事を「成す」。

富士は「無事」、鷹は「高い」、茄子は「成す」という掛言葉。

それでは三以降は何かといいますと、四に末広がりの扇子、五に煙が上昇するので煙草、六に毛がない（怪我ない）座頭といわれています。